

東大阪市指定文化財 旧河澄家 ニューズレター

2026年4月発行

vol. **34**

かわすみ家



歴史を繋ぎ 歴史を紡ぐ 河内木綿は多くを語らない

纏い続けた沢瀉紋

特集 / 企画展示 河内木綿展

pick up!
鬼の墨彩画展
やさしい暮らし 昔にならう
- 節分を迎えて 鬼の持ち物とその意味 -

歴史余話
日下之櫃「千手寺 光堂について」
河澄家の自然 葉の奥、葉蘭の花

展示・イベントのご案内

端午の節句展

日本の年中行事「端午の節句」に合わせ、縁の国・浮世絵の節句、五月人形、河津童に仕える甲冑なども展示します。江戸・江戸甲冑を身にきて写真も撮っていただけます。

2026年4月18日(土)～5月6日(水・祝)

端午の節句工作体験&コンサート

紙漣のぼり工作体験の後、アンサンブルバーチャによる演奏を楽しんでいただけます。

日時：2026年4月19日(日)
13:00～15:00
13:00～14:00 端午の節句工作体験
14:00～15:00 コンサート
※コンサートからの参加も可能(事前予約)

対象：3歳以上 (※紙漣のぼり体験は別)

定員：15名

申込：4月1日(水) 9:30～
※電話受付はホームページの問い合わせフォームより
※抽選・先着順で定員に達した場合は、アンサンブルバーチャ

※主催：浮世絵・浮世絵
協賛：旧河津家(奥州河津町歴史文化館)

※会場：旧河津家(奥州河津町歴史文化館)
〒970-0001 福島県河津町大字河津1-1-1
TEL: 0246-22-1111 FAX: 0246-22-1112
E-MAIL: info@kawasaka-museum.jp
※入場料：無料(紙漣のぼり体験は別)
※お問い合わせ：0246-22-1111(平日9:00～17:00)またはホームページ

浮世絵展

「浮世絵にみる風景と暮らし」

令和8年
5月16日(土)～6月14日(日)

東海道五十三次(写眞) 展示

浮世絵(写眞)で巡る東海道五十三次

講演「浮世絵にみる風景と暮らし」
日 時：令和8年5月17日(日) 13:00～15:00
場 所：旧河津家
講 師：小島弘隆氏
(一橋大学教授 河内いづみ・安河内清子 准教授)
定 員：20名
参加費：無料
申込：4月17日(金)19時30分より
電話またはHPの問い合わせフォームより

※ 巡回期間 開場時間 9:30～16:30 ※ 休館日 月曜日の場合は当日の休館日

※主催：浮世絵・浮世絵
協賛：旧河津家(奥州河津町歴史文化館)

※会場：旧河津家(奥州河津町歴史文化館)
〒970-0001 福島県河津町大字河津1-1-1
TEL: 0246-22-1111 FAX: 0246-22-1112
E-MAIL: info@kawasaka-museum.jp
※入場料：無料(紙漣のぼり体験は別)
※お問い合わせ：0246-22-1111(平日9:00～17:00)またはホームページ

展示・イベント

古民家で土に触れる
「おとなの陶芸教室」月例全6回
2026年4月15日(水)～2026年6月24日(水)

「端午の節句展」
2026年4月18日(土)～2026年5月6日(祝)

「浮世絵展 ～浮世絵にみる風景と暮らし～」
2026年5月16日(土)～2026年6月14日(日)

講演「浮世絵にみる風景と暮らし」
2026年5月17日(日)

「論語の素読会」
毎月第2・第4土曜日

※休館日・開場時間等はP12「イベントカレンダー」にてご確認ください。



かわすみ家

2026
Apr.
vol.

34

東大阪市指定文化財 旧河澄家 ニュースレター

目次

04 特集 河内木綿展

江戸時代に河内の名産品であった河内木綿と、木綿の文化について

06 日下之樋 - 歴史余話 -

千手寺（せんじゅうじ）光堂について

08 イベントレポート

筑前琵琶弾き語り 物の怪退治に いざ行かん！
秋季ウォーキング 石切・額田周辺の寺社・史跡をめぐる
福を呼ぶ！ かまどで味わう豚汁とおにぎり / 鬼の面づくりとチョコレート豆まき
新春大道芸公演と昔遊び 孔舎衛校区福祉委員主催
デザインを楽しむワークショップ サブローごまをつくろう
近畿大学峰滝ゼミ REPORT 古民家でもちつき

10 Pick Up

鬼の墨彩画展
やさしい暮らし 昔にならう - 節分を迎えて鬼の持ち物とその意味 -

12 イベントカレンダー



旧河澄家の自然

葉の奥、葉蘭の花

和名 ハラン 学名 *Aspidistra elatior*

キジカクシ科ハラン属 常緑多年草

ー古き庭に息づく、静かな息吹

葉蘭（ハラン）は、日陰でも育つ丈夫な植物で、その葉は古くより料理の仕切りやあしらいとして、暮らしの中で活かされてきました。目立たない場所に花を咲かせるその姿には、自然とともにある静かな営みが感じられます。



葉の根元にひっそり咲く



緑深い東庭にある葉蘭

東庭にある葉蘭の葉をかき分けて、葉の陰に隠れてひっそりと花を咲かせていることに気づきます。

庄屋として地域の暮らしを支えてきた河澄家においても、こうした身近な自然を大切に、無理なく取り入れられてきた知恵は、環境へのやさしさにも繋がっています。

ご協力いただいた
石切参道にある河内木綿はたおり工房による展示

今約七十年（日本一八七二）より一
月十七（日）まで、河内木綿展を開催
致しました。

[illegible]

肺を一本は、二、三本に結ばせたり。土
方の中土様の土に埋めたるを、一割しを
肺に生根せしめ給へし。土を土に致し
て生じたり。

個々とは古例の承継のする例の家
な又様ですが、右に引く事のない
本紙も別れて居る事なことに上げ
ることも出来なくなりまして。

弁論として河内以外の木綿について
パネル展示致しました。文獻主、



糸杵
紡いだ糸を巻き取り、整えるための道具



座繰り



砧 (きねた)
布を打って整えるための道具



畑で育てた綿にも
触れていただきました



天竹神社 綿祖祭
愛知県西尾市観光協会 HP より
日本に初めて綿が伝来したと伝えられる天竹神社



綿打図
『機織彙編 (きしょくいへん)』
著：大関増業 刊：文政 13 年 (1830 年)

初めて大綿が日本に伝来したのは、延
暦元年(782年)と9年とあり、それ以来
まず、官給人としての河内にもまじり
た。綿の字の語源は、一説は意匠とい
えますが、通くとも1697年(元禄10
年)に、河内、柏原、河津、楠原、備後に定着
いたといふ『八景集』(河内：元禄10
年・1697年)に、
綿の字、記号にならずに、竹の類に
言動ふくし紀伊・河内・年へより8年
年、
といふ公田田集が奈良・高松郡を記
した際に、綿の地味な言を記した人
に非ざる。

この頃にも綿の集が河内を越えてに
使われ、綿が使われ、という事があま
りな。

本編が主物として河内に綿を講が対し
いた河内本綿である。明治以降、安永
は河内綿に師する、雲の二座などど
りませ。

それこそ、河内本綿の持つ風合いに勝
るものはない。近年では様々な教習機
関などで、河内本綿を栽培する場所が
増え、また、

河内海(元)も越え、河内本綿の持つ
風合いに勝るものはない。近年では
様々な教習機関などで、河内本綿を
栽培する場所が増え、また、

日下之樋

豊かな自然と文化の街、日下

主庭に立つ樋の古木は、樹齢およそ五百年
日下の移ろいをみつめてきました。
その記憶に耳を澄まし、この土地の歴史を辿ります。

千手寺（せんじゅうじ） 通称「光堂」について

近鉄石切駅より石切劔箭神社の参道を下りたところに恵日山千手寺（えにちざん せんじゅうじ）があります。『慧日山千手寺記』によれば1300年前に創建された名刹で、通称「光堂」と呼ばれます。

その縁起によれば、役行者が不思議な神光を感じて、現れた千手観音を祀るが故に、通称「光堂（ひかりどう）」と称されるようになったと伝えられます。（「ユーズレター」VOL.33を参照）

光に導かれて顕現化したご本尊をお祀りする寺院の縁起譚は数多くありますが、その全てを「光堂」と称される訳ではありません。

では「光堂」には、どんな意味が込められているのでしょうか。

「五月雨を降り残してや光堂」（奥の細道）。

これは松尾芭蕉が岩手県平泉にある中尊寺金色堂を見て詠んだ一句です。光堂と聞いて金箔等、荘厳で光輝く堂宇を思い描きますが、そうではないようです。

中尊寺仏教文化研究所長 佐々木邦世氏は「金色堂は、金箔を貼っているから金色堂ではございません。阿弥陀仏は無量光仏、無量の光だから、光ついても光らなくても阿弥陀堂は光堂なわけです。」（中尊寺寺報『関山（かんざん）第24号』所収）と述べておられます。『千手寺由緒書』にも「光堂とは阿弥陀如来や千手観音、地藏菩薩などを安置して西方浄土に往生を願うお堂」と記します。

◎「俗に曰く光堂と呼ぶ」

『後拾遺往生伝 巻上 前安房守源親元の段』【保延三年（1137年）、著…三善為康（みよしのためやす）】からの抜粋です。同書は『拾遺往生伝』続編として編纂され、73名の往生の様子を記します。この段のあらすじは、「前安房守源親元が東山（京都）の地に西方の阿弥陀仏を迎えるため五間四方のお堂を建て、その姿を尊ぶ。白毫は東を照らし脇に菩薩を侍らす蓮台は西方に聳える。俗に光堂と呼ぶ。仏前では西向きに拝み、身体は弥陀に寄せ、心は蓮台に寄せる。やがて空が高く晴れた日に紫雲がたなびき、六十六歳で大往生を遂げます。」

※白毫＝仏の眉間、左右の眉の間に生えているとされる白い毛のこと。

阿弥陀仏は東向きに光を放ち、人は西向きに拝む様子は、日想観を表します。

観無量寿経（かんむりようじゅきょう）には、浄土の情景を思い浮かべる修行（観想）のうち、西方浄土を思い描いて日が没する様子を見詰める「日想観」があります。

◎「一切衆生（いっさいしゅじょう）、みな日の没するを見よ」

（日想観文 抜粋）

経典には、「一心不乱に一つのことを思いをこらし、西方を観想するようにつとめるがよろしい。（途中略）じつと太陽を見つめるようにせよ。そして、太陽を見終わったらならば、たとえ眼を閉じようとも開こうとも、いつもありありと瞭に浮かぶようにしなければならぬ。これを日想とよび、初観と名づける」（大乘仏典6、中央公論社）とあります。

「光堂」の光は、阿弥陀仏が放つ極楽浄土を映し出す光であると云えます。天正二年（1574年）に記された『慧日山千手寺記』の冒頭には同寺から遥かに見渡す眺望を伝えます。豊かに開けた田畝の向こうには霧に煙った四天王寺の仏塔が見え、さらには播州・摩耶の山々、須磨・明石では「鯨吹蜃気楼靄々霏々（あいあいひひ）」（霧状の雲がたなびいて鯨が汐を吹く）と記されています。美しく広がる景色の向こうに沈む夕日を見つめて瞑想にふける。千手寺はまさに「西方に沈む夕日を観じて浄土往生を願う日想観の道場」（千手寺 氏より）であり、まさしく「光堂」と云えます。

時は流れ、町は様変わり致しましたが人々の祈りに変わりはありません。

春彼岸の中日である春分の日（秋彼岸では秋分の日）は昼夜の長さが等しく太陽がほぼ真西に沈む日です。年2回に訪れるお彼岸の日くらいは、知識や経験にこだわらず、スマホを手放し、俯いた顔を上げ、何も考えず、ただ夕日を眺めてみませんか。



石切駅より望む、春彼岸の西側夕景



石切駅より望む、春彼岸の東側夕景 - あべのハルカス



千手寺（せんじゅうじ）山門

旧河澄家にて開催しましたイベント&展示のご報告。
地域の方々と触れ合いながら様々な催しを致しました。
詳しいイベント情報はホームページにも掲載中です。

Kawazumi Report

筑前琵琶弾き語り

物の怪退治に いざ行かん！

一〇二五年十二月二日(土) 開催



演奏前のひととき 門井旭蓮氏



筑前琵琶体験の風景

筑前琵琶奏者で日本旭会教授の門井旭蓮氏を招き、奥座敷棲鶴楼で筑前琵琶の弾き語り公演が行われました。公演では「物の怪退治にいざ行かん！」と題して、馴染みのある「桃太郎」と「耳なし芳一」の演目が披露され、筑前琵琶の旋律に語りを入れる弾き語りの鑑賞を楽しむことができました。演奏の後には、筑前琵琶の歴史や楽器としての特徴について詳しい解説が行われ、参加者にとって理解を深める良い機会となりました。さらに、演奏後には参加者が実際に琵琶に触れるミニ体験もあり、一人一人が琵琶を手に取り、音を奏で、伝統楽器を堪能されました。参加者からは「生の琵琶演奏を聴くのは初めてでしたが物凄く迫力がありました。」「初めて琵琶に触れることができ、良い経験が出来ました。」などの感想が寄せられ、日常では得難い新鮮な体験として好評をいただきました。

秋季ウォーキング

石切・額田周辺の寺社と史跡を巡る

二〇二五年十二月六日(土) 開催



旧石切駅について解説する川向氏



しっとりと秋深まる重願寺

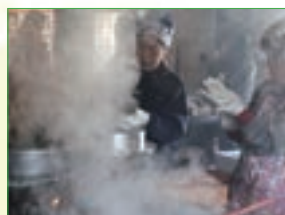
平城宮跡や東大阪でボランティアガイドを務める川向章介氏の案内のもと、石切・額田周辺の寺社や史跡を巡るウォーキングイベントを開催しました。参加者は石切駅に集合後、弘法大師が一夜のうちに爪で彫ったと伝えられる爪切り地蔵を皮切りに、石切劔箭神社上之社、千手寺、夫婦塚古墳、重願寺、妙徳寺、玄清寺と多くの寺社や旧跡をたどりました。十二月に入り寒さ増す時期でしたが、当日は見事な快晴に恵まれ、重願寺の周辺からは大阪平野の美しい景色を一望することができました。多彩な資料を用いながら、各所でエピソードをわかりやすく語る川向氏の解説に、参加者は熱心に耳を傾け散策を楽しみました。「今に残る歴史の足跡を学ぶことができ楽しかった」「説明が詳しくわかりやすかった」などの歓びの声が多く寄せられ、非常に充実したイベントとなりました。

阪口真智子氏とつくる、まなぶ

節分ワークショップ

二〇二六年二月二十四日(土)

二〇二六年二月一日(日) 開催



心も体もあたたまる豚汁とおにぎり



もりもり
たべたよ



こどもたちの描いた鬼

鬼の墨彩画展会期中に開催したイベントでは、節分の風習にふれながら、食と健康をみつめるひとときとなりました。「福を呼ぶーかまどで味わう豚汁とおにぎり」では、薪で火をおこし、米を炊き上げておにぎりを結び、野菜たっぷりの豚汁を作るところから参加者みんなで体験。薬学と漢方の知見をもつ墨彩画家の視点も感じられ、かまどを囲みながらあたたかな交流が生まれました。また、「鬼の面づくりとチョココレート豆まき」では、墨彩画家から直接、描き方のコツや表現の楽しさを学び、思い思いに表情豊かな鬼の面を仕上げ、豆まきを楽しみました。協賛の株式会社チーリン製菓より、チョココレートや箱入りのプレゼントもご提供いただき、世代を超えて笑顔あふれる一日となりました。



旧河澄家HP
イベント情報

旧河澄家HPイベント情報ページ→ <http://www.kyu-kawazumike.jp/eventinfo/>
Facebook情報ページ→ <https://www.facebook.com/kyukawazumike>
Twitter情報ページ→ https://twitter.com/kyu_kawazumike
Instagram情報ページ→ https://www.instagram.com/kyu_kawazumike/

孔舎衛校区福祉委員会主催 新春大道芸講演と昔遊び

お餅のお土産付き

二〇二六年一月十一日(日) 開催

新春恒例、孔舎衛校区福祉委員会の主催、近畿大学峰滝ゼミと旧河澄家の共催による催しが開催されました。地元で活動する「河内小梅」一座による大道芸公演と懐かしい昔遊びを楽しむことができ、多くの参加者で賑わいました。大道芸公演では、南京玉すだれや傘回しといった日本の伝統的な演目が披露され、ユーモア溢れるトークが加わり、万博パージョンの南京玉すだれで、盛り上がりは最高潮に達しました。一方、孔舎衛校区福祉委員会と近畿大学峰滝ゼミによる昔遊びのコーナーでは、こま回しや羽根つき、カルタ、福笑いなど懐かしい遊びが用意され、多くの家族連れの楽しむ姿が見られました。また、全員にお餅も振る舞われ、日本独自の芸能や文化を体感できるこのイベントは、新春のお祝いにふさわしく、多くの人々にとって記憶に残る一日となりました。古き日本の風習を顧みることができま



新春を賑やかに、華やかに
河内小梅一座の皆さん

デザインを楽しむワークショップ サブローごまをつくらう

二〇二六年一月十二日(祝) 開催

グリコのおもちゃデザイナーとして活躍された宮本順三さんの記念館「豆玩舎ZUNZO」(おまけやズンゾ)より、磯田武士さんを講師にお迎えし、サブローごま作りを開催致しました。「サブローごま」とは「折る刃式カッターナイフ」を発明した岡田三朗氏が考案した、ビー玉と円盤型の厚紙を組み合わせて作るシンブルながら創造性に満ちた手作りコマです。子供からシニアまで多くの人に親しまれています。参加者たちコマの表面に自由な発想で絵を描いたり、色紙を貼ったりして、独自のデザインのコマを完成させました。また、参加者は完成した作品をNPO法人おまけ文化の会主催の「サブローごまデザインコンテスト」にも応募。旧河澄家のイベントからは四つの作品が見事に受賞し、後日、賞状と賞品が贈られ、楽しいイベントがさらに華やかなものとなりました。



楽しさを伝える磯田武士氏



デザインを楽しむワークショップ
わくわくしながら応募

峰滝ゼミ

近大
KINDAI UNIVERSITY



餅つきに挑戦

古民家でもちつき

令和七年十二月二十一日、旧河澄家にて「餅つきイベント」を開催しました。今回のイベントは私たち峰滝ゼミ16期生にとって、記念すべき初めてのゼミ活動であり、当初は「ゼミのみんなと仲良くなれるだろうか。楽しいイベントになるだろうか。」というような緊張もありました。ですが、そんな心配は杞憂に終わり、餅つきが始まると「ゼミの先輩後輩が隔てなく自然な会話が生まれ、あつという間に打ち解けていきました。こうして楽しい素敵な一時を過ごせたのは、ひとえに温かく迎えてくださった旧河澄家の皆さまのおかげです。また、ゼミの仲間と協力して一つのことに取り組んで行く中で、お互いの心の距離も縮まりました。さらに地域に住まいの家族連れの方々にもたくさんご参加いただき、会場は終始にぎやかな雰囲気でした。こうして力を合わせてひとつの事にみんなで取り組み、その場の空気を存分に楽しむコミュニケーションを体験する過程で、人の温かさやつながりの大切さを改めて実感する一日となりました。

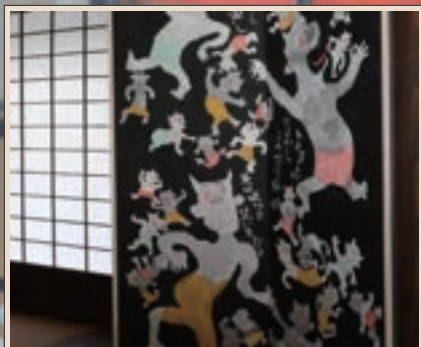
阪口真智子の 鬼の墨彩画展

墨のにじみから、鬼たち

墨のにじみから立ちあがる気配には怒りや哀しみ、強さや優しさ—さまざまな感情が込められています。

阪口真智子氏の墨彩画は、鬼を単なる異形として描くのではなく、私たちの心の奥に潜む「もうひとつの姿」を表現しております。

本展は、第二回目となり、二〇二六年一月十七日（土）〜二月八日（日）まで開催しました。日本画の絵の具を用いた墨彩画と、瓦の土でつくられた土人形、全五十一点。それぞれの佇まいが、古民家の空間に静かな存在感をもたせて広がっていました。多くの方に足をお運びいただき、開館日二十日間で五二五名のご来館がありました。阪口氏は、日々の暮らしの中にある想いにそとと寄り添うように、作品を描かれています。心にふと重なる瞬間や、内面と静かに向き合うひとときを、大切にされているように感じました。



屏風仕立ての鬼の墨彩画 主屋 ナンドにて



市松状に構成された作品 シモダイドコにて



心がほどけるような言葉と、土人形



やさしい暮らし
昔にならう

節分を迎えて
鬼の持ち物とその意味

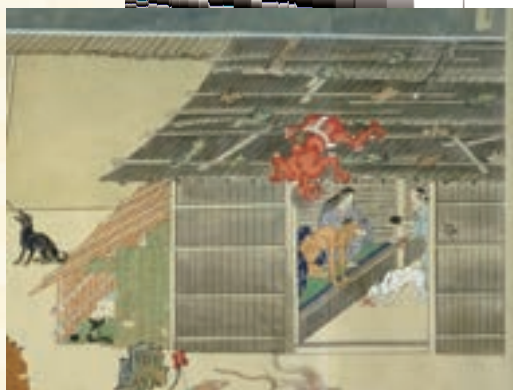
季節の移ろいとともに、受け継がれてきた節分の習わし。

豆まきや柊鰯など、暮らしの中に息づく風景は、今もなお親しまれています。その中に登場する鬼の持ち物には、どのような意味があるのでしょうか。

節分に欠かせない存在が鬼です。

では、鬼の正体は何でしょう。諸説ある中で、鬼伝説の地域と鉱山のあ
る地域との符号から、鬼の正体は
山師とする説があります。

『鬼伝説の研究—金工史の視点から』著・若尾五雄。



写真① 春日権現験記【説話集・延慶2年(1309年)】



写真②『北野天神縁起絵巻』【承久元年(1219年)】

金銀の採掘により財宝を得て、また鉄は武器に、農機具もなる貴重な資源。地下に眠る財宝を掘り出す者集団は支配者にとって重要な存在であったと言えます。

山師のノミやツチを振るって金属類を掘り出す姿は、振れば振るほど財宝が湧き出す打ち出の小槌の魔法に見えた事でしょう。



写真③『北野天神縁起絵巻』【承久元年(1219年)】

地獄で働く鬼たちを見ますと、炎

と共に描かれ(写真②)、手斧(チ

ナ)・ヤリカンナ・ツチとノミ

を持てます(写真③)。また、春日

権現験記には疫病を流行らせる赤鬼

が描かれていて、腰には槌を佩い

ています(写真④)。

かつては主要な労働を担っていた鬼

は、時代とともに労働の機会も与えら

れるようになった。その上、退治され

る鬼は、豆まきの豆の化身。今年ぐら

いはやさしい気持ちで豆を投げてみ

んか。



2026年4月～ 旧河澄家 イベントカレンダー

沢瀉は、池や田に自生する水草で、古くは貴族の車や武具の文様として用いられました。葉の形が矢に似ることから、別名「勝ち草」とも呼ばれ、武家の家紋として人気がありました。

※イベント日程は本誌発行時の予定ですので、都合により多少前後する可能性があります。詳しくはお問合せください。

端午の節句展

4/18 (土)
～5/6 (祝)



毎年恒例の端午の節句展を開催します。
本展では、日本の年中行事「端午の節句」にあわせ、鯉のぼりや節句のぼり、五月人形、河澄家に伝わる具足などを展示いたします。
古民家にしつらえた節句飾りとともに、日本の季節の行事を身近に感じていただければ幸いです。4月19日(日)には、新緑の気配を感じるアンサンブル・ビバーチェによるコンサートを開催します。

参加無料

浮世絵展

5/16 (土)
～6/14 (日)



江戸時代の人々の暮らしや風景を描いた浮世絵。本展では、風景の中に息づく暮らしに目を向けます。歌川広重の「東海道五十三次」をもとにした写図(複製)を通して、江戸から京へと続く旅の道のりをたどります。一枚の絵に映る季節の移ろいや人々の営みを、ゆったりとお楽しみください。

参加無料

講演 浮世絵にみる風景と暮らし

5/17 (日)



浮世絵に描かれた風景や人々の営みを手がかりに、その背景にある江戸の暮らしや文化を読み解きます。旅や季節の描写に込められた意味にも触れながら、浮世絵の見方が少し広がるひとときです。

論語の素読会

毎月
第2・第4
土曜日



声に出して文字を読む「素読」。
素読は、江戸時代の寺子屋で活用されていた学習方法でした。素読で読む文書として中国の古典「四書」がよく使われています。その中のひとつに「論語」があります。「論語」は、孔子とその弟子の中でも優れた人物たちの言語をまとめた書物で、心を打つ章句が詰まっています。古来から大切にされてきた生き方や考え方を学びませんか。

参加無料

きゅうかわずみけ

東大阪市指定文化財 旧河澄家

見学無料

所在地 〒579-8003 大阪府東大阪市日下町7丁目6-39
電話番号 TEL/FAX 072-984-1640
ホームページ <http://www.kyu-kawazumike.jp>
開館時間 午前9時30分～午後4時30分
休館日 月曜日(祝日の場合は翌日)
入館料 無料
駐車場 5台(無料)
満車の場合は、近鉄けいはんな線「新石切駅」周辺の有料駐車場をご利用ください。

◆アクセス方法

公共交通機関をご利用の場合

- ・近鉄奈良線「石切駅」より北西へ1.2km
- ・近鉄けいはんな線「新石切駅」より北東へ2km
- ・近鉄奈良線「東花園駅」または近鉄けいはんな線「新石切駅」より、近鉄バス「四條畷行き」または「住道行き」に乗り「南日下」バス停より東へ800m
- ・JR学研都市線「住道駅」または「四條畷駅」より、近鉄バス「東花園駅前行き」に乗り「南日下」バス停より東へ800m

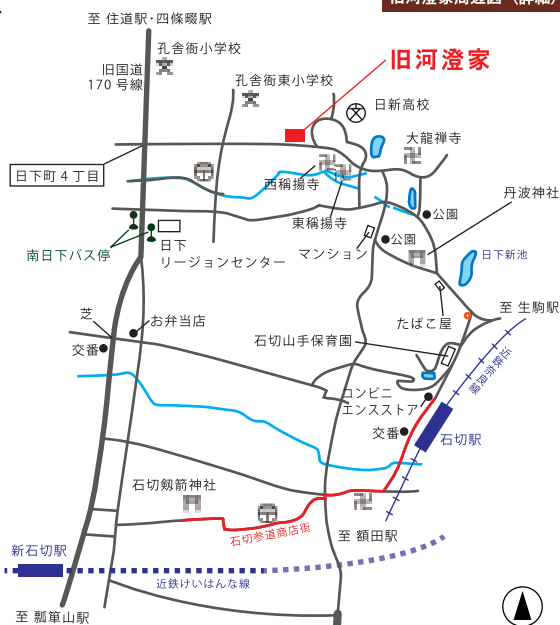
マイカーをご利用の場合

- ・旧国道170号線「日下4丁目」交差点を東へ、約600m直進

◆指定管理者 株式会社アスウェル TEL: 072-939-7861
FAX: 072-952-4340

URL <http://www.asuwell.co.jp>
E-mail mail@asuwell.co.jp

旧河澄家周辺図(詳細)



株式会社アスウェルは、総合ビルメンテナンス会社として、次の認証を取得しています。

